

# 増加に転じた県人口



## 高まる

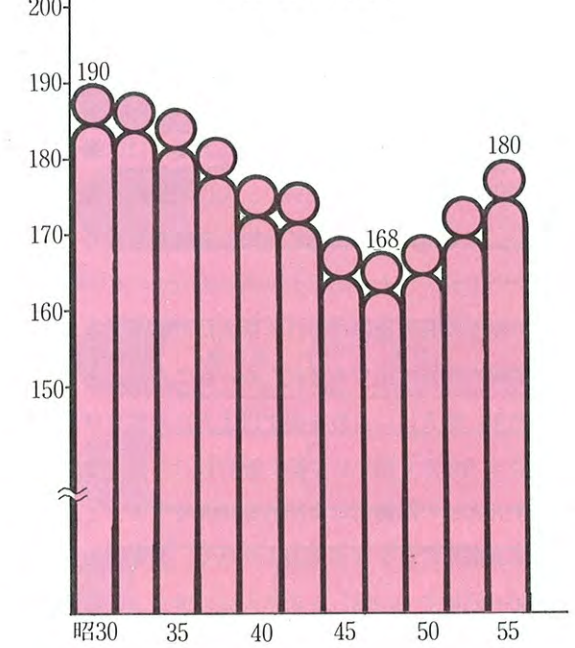
### “ふるさと志向”

昭和30年代から40年代中ごろまでの経済の高度成長期には、先進工業地帯を中心とする大都市地域の雇用需要が拡大したため、人口の都市集中が進み、熊本県の人口も減少の一途をたどりました。

しかし、約20年近くもの長い間減少を続けた熊本県の人口は、昭和47年の168万人を最後に、48年より増加に転じています。とくに、昭和51年からは、出生と死亡の差による人口の自然増だけでなく、県外からの転入人口が転出人口を上回る社会増も加わり県人口は、現在まで増加を続けてきています。

このように、熊本県の人口が増加するようになった要因の主なものとしては、高度経済成長の過程において、物質的な豊かさが一応満たされたなかで、新しい価値観のもとに、大都市の過密の弊害から逃れ、より豊かな真の人間生活を求めようとする意識が強まり、ふるさとへの志向を高める結果となったことがあげられます。それ

万人 県人口の推移



とともに、一方では近年における地方での就業機会の増大や所得格差の縮小も大きく影響していると考えられます。

